

平成21年度決算の概要



名古屋高速道路公社

目 次

◆ 平成21年度決算のポイント	1
◆ 平成21年度損益計算書の概要	2・3
◆ 通行台数・料金収入の推移	4
◆ 収支率の推移	5
◆ 平成21年度貸借対照表の概要	6
◆ 平成21年度末投資額・償還額の状況	7
◆ 平成21年度末借入金残高の状況	8
◆ 償還準備金の推移	9
◆ 償還率の推移	10
◆ 整備計画における償還計画と償還実績の比較 ..	11
◆ 平成21年度収入支出決算書の概要	12・13
◆ 平成21年度建設事業の状況	14
＜参考資料＞	
◆ 会計処理の特徴	15
◆ 償還準備金のしくみ	16
◆ お客様からいただいた通行料金の使いみち	17



◆平成21年度決算のポイント

■名古屋高速道路公社の平成21年度決算についてのポイントは、以下のとおりです。
詳細は、次ページ以降をご覧ください。

- ① **料金収入**は、[※]「料金引き下げ社会実験」の実施に伴う愛知県及び名古屋市からの減収補填額を含む額で比較しますと、前年度から10億円減少し、590億円となりました。
→ 景気低迷等に伴う交通量の影響により、前年度比1.7%の減少となりました。
- ② **道路管理費**は、前年度から10億円減少し、89億円となりました。
→ 消費税において税額算定に係る課税仕入控除額の変動により、21年度は前年度の納付(消費税納付金15億円)から還付(消費税還付金1百万円)になったことが主な要因です。
- ③ **償還準備金繰入**(借入金の返済に充てた額)は、前年度から7億円増加し、369億円となりました。
→ 収益において料金収入が減少したものの、費用において消費税納付金が皆減(15億円)となったことが主な要因です。
- ④ **建設に要した借入金**(道路債券を含む借入金及び出資金)は、前年度から55億円増加し、1兆2,510億円となりました。
- ⑤ **償還準備金**(償還準備金繰入の累計額)は、前年度から369億円増加し、3,411億円となりました。
- ⑥ **収支率**(100円の収入を得るために必要となる管理費用の比率)は、前年度比2.3ポイント良くなり、38.2%となりました。
- ⑦ **償還率**(償還対象額に対する償還準備金の比率)は、前年度比2.6ポイント向上し、24.1%となりました。

※「料金引き下げ社会実験」とは、名古屋高速道路を有効活用し、周辺道路と一体となって、人・モノの流れを活発化し、地域の活性化を図ることを目的として、愛知県及び名古屋市が国からの交付金を活用。その実施にあたっては、愛知県、名古屋市及び名古屋高速道路公社が一体となって取り組むもの。土・日・祝日のETC(無線)利用の普通車を対象に料金を3割引(名古屋線750円→530円、尾北線350円→250円)とし、平成21年度は平成21年7月18日から平成22年3月31日まで実施。

◆ 平成21年度損益計算書の概要(1)

(単位:百万円)

費用の部					収益の部				
勘定科目	21年度	20年度	前年度比		勘定科目	21年度	20年度	前年度比	
	A	B	A-B	A/B(%)		A	B	A-B	A/B(%)
事業資産管理費	9,704	10,780	△ 1,076	90.0	業務収入	59,580	60,607	△ 1,027	98.3
道路管理費 (内消費税納付金)	8,909 (0)	9,946 (1,498)	△ 1,037 (△ 1,498)	89.6	料金収入	57,020	60,029	△ 3,009	95.0
貸倒引当金繰入	2	0	2	皆増	マイレージ還元 負担金収入	510	516	△ 6	98.8
マイレージ 還元負担金	785	834	△ 49	94.1	業務雑収入 (内社会実験減収補填額)	2,051 (1,986)	63 (0)	1,987 (1,986)	3,255.6
マイレージ 引当金繰入	8	0	8	皆増	業務外収益	109	237	△ 128	46.0
一般管理費	1,295	1,352	△ 58	95.8	(内消費税還付金)	(1)	(0)	(1)	
業務外費用 (内借入金利息)	11,810 (11,649)	12,539 (12,366)	△ 728 (△ 717)	94.2	マイレージ 引当金戻入益	0	26	△ 26	0.0
小計(管理費用)	22,809	24,671	△ 1,862	92.5					
償還準備金 繰入	36,880	36,200	680	101.9					
合計	59,689	60,871	△ 1,182	98.1	合計	59,689	60,871	△ 1,182	98.1

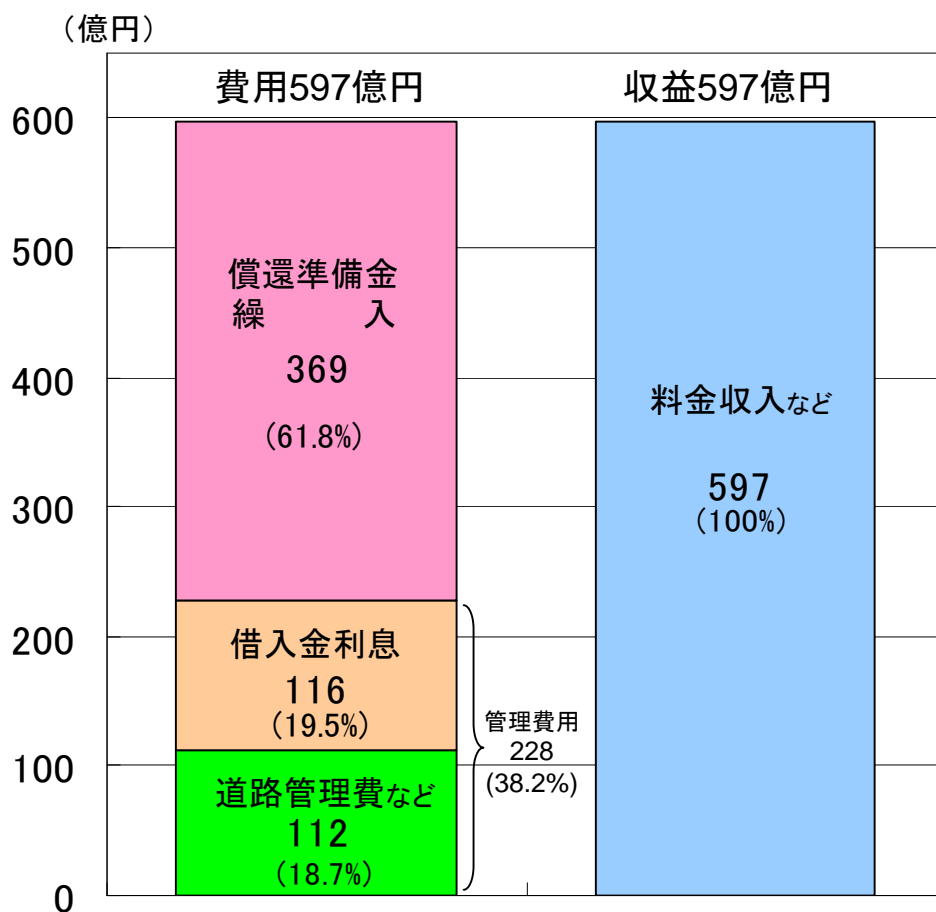
(注) 端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

- 収益の状況…○ 収益の総額は、そのほとんどがお客様からの料金収入で597億円となっています。
- お客様からの料金収入は、景気低迷等に伴う交通量の影響及び料金引き下げ社会実験を実施したことに伴う減少により、前年度から30億円(5.0%)の減少となりました。
- 業務雑収入は、料金引き下げ社会実験の実施に伴う減収補填額が加わったことにより、前年度から20億円の増加となりました。
- 社会実験の実施に伴う減収補填額を含めた料金収入は、前年度から10億円減少し、590億円となりました。
- 費用の状況…○ 費用の総額は597億円であり、主なものは、道路の維持補修や料金收受などに要した道路管理費89億円、業務外費用(借入金利息など)118億円及び借入金の元金返済に充てた償還準備金繰入369億円となっています。
- 道路管理費は、消費税において税額算定に係る課税仕入控除額の変動により、21年度は前年度の納付(消費税納付金)から還付(消費税還付金)になったことにより、前年度から10億円の減少となりました。
- 償還準備金繰入は、収益・費用の状況により、前年度から7億円の増加となりました。



◆ 平成21年度損益計算書の概要(2)

平成21年度の営業中道路の収支状況



1日当たりの通行台数と料金収入

年度	供用延長 (km)	日平均通行台数 (千台)	日平均料金収入 (百万円)
平成20	69.2	272.0	164.5
平成21	69.2	271.5	161.7
対前年度比		99.8%	98.3%

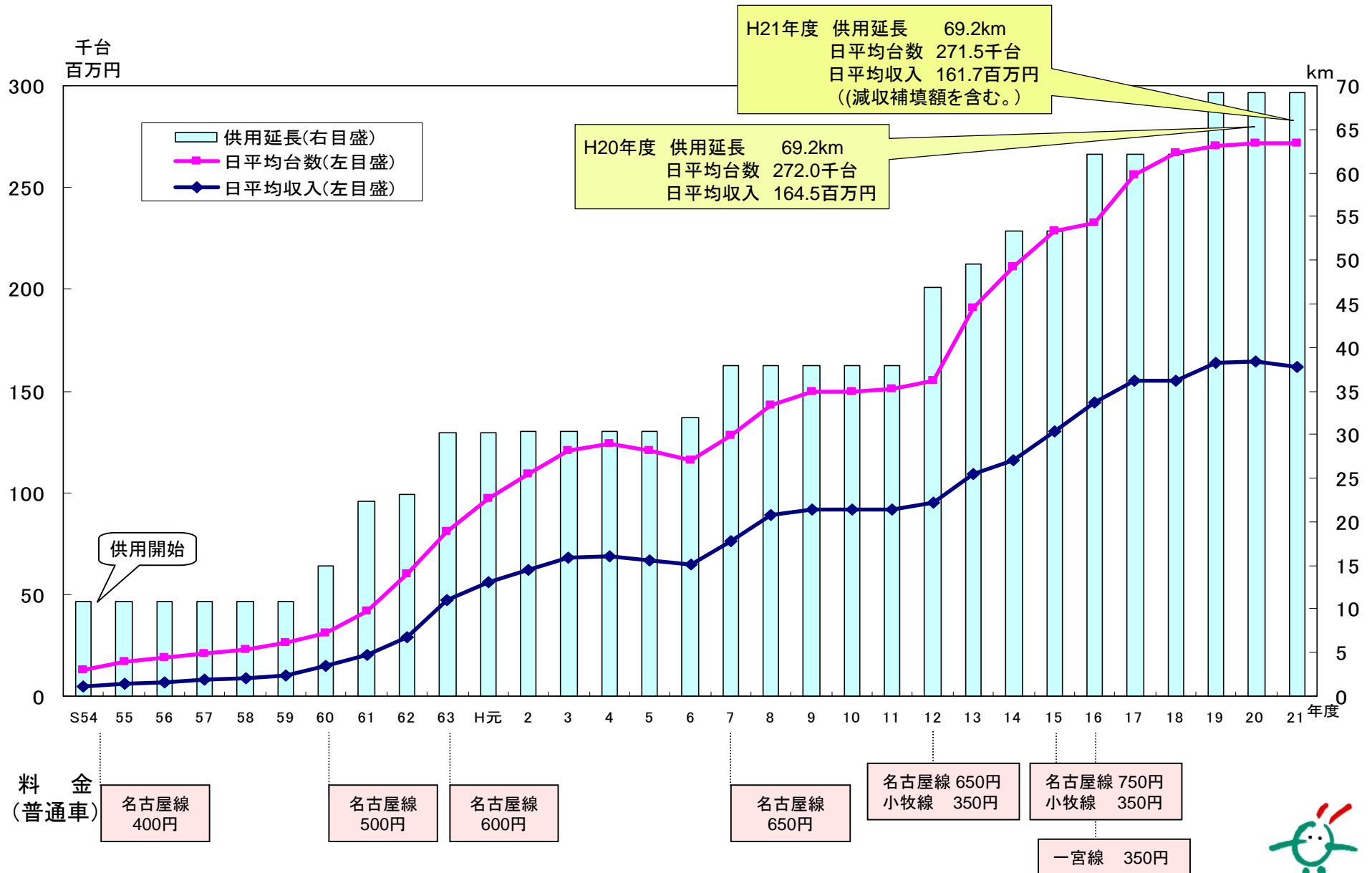
※H21日平均料金収入には、社会実験の減収補填額を含む。

平成21年度の収支率の状況

収支率(100円の収入を得るために必要となる管理費用の比率)は、38.2%となりました。

$$\begin{aligned}
 & \text{(収支率)} && \text{(道路管理費など)} && \text{(借入金利息)} && \text{(収益)} \\
 38.2\% & = && (112\text{億円} + 116\text{億円}) & \div && 597\text{億円}
 \end{aligned}$$

◆ 通行台数・料金収入の推移

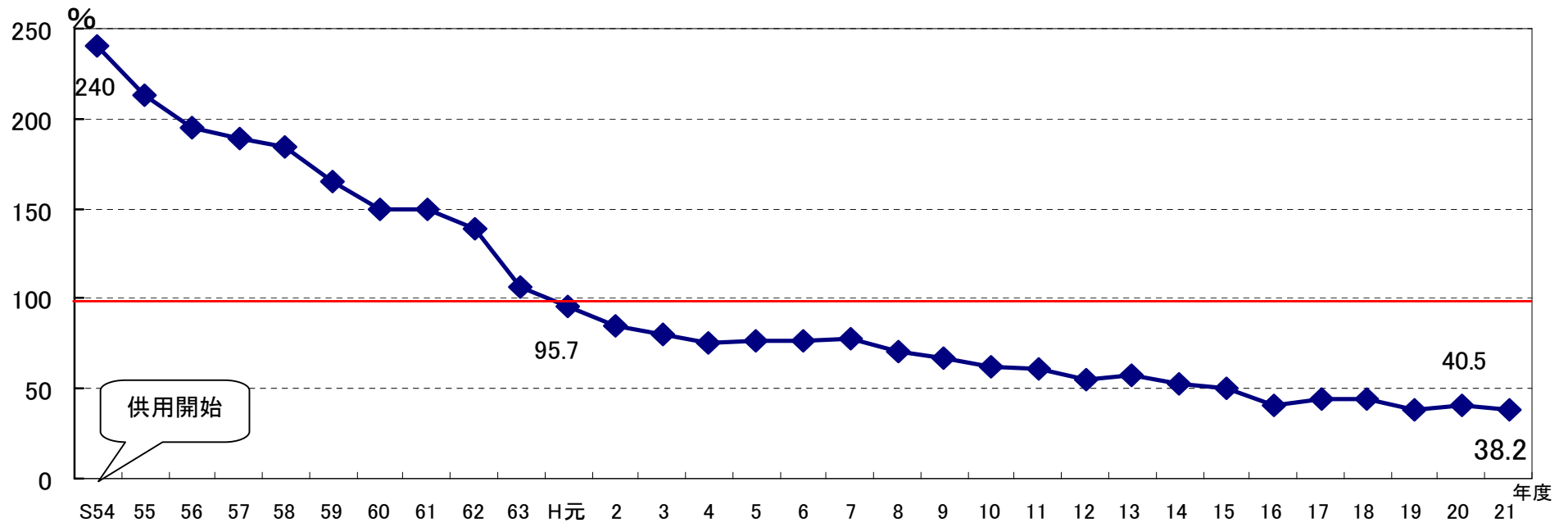


◆ 収支率の推移

『収支率』とは、100円の収入を得るために必要となる管理費用の比率です。

$$\text{収支率} = \frac{\text{道路管理費など} + \text{借入金利息}}{\text{収 益}} \times 100$$

■ 供用開始当時の昭和54年度に240%であった収支率は、平成元年度に初めて100%を割り、平成21年度は前年度比2.3ポイント良くなり、38.2%となりました。



◆ 平成21年度貸借対照表の概要

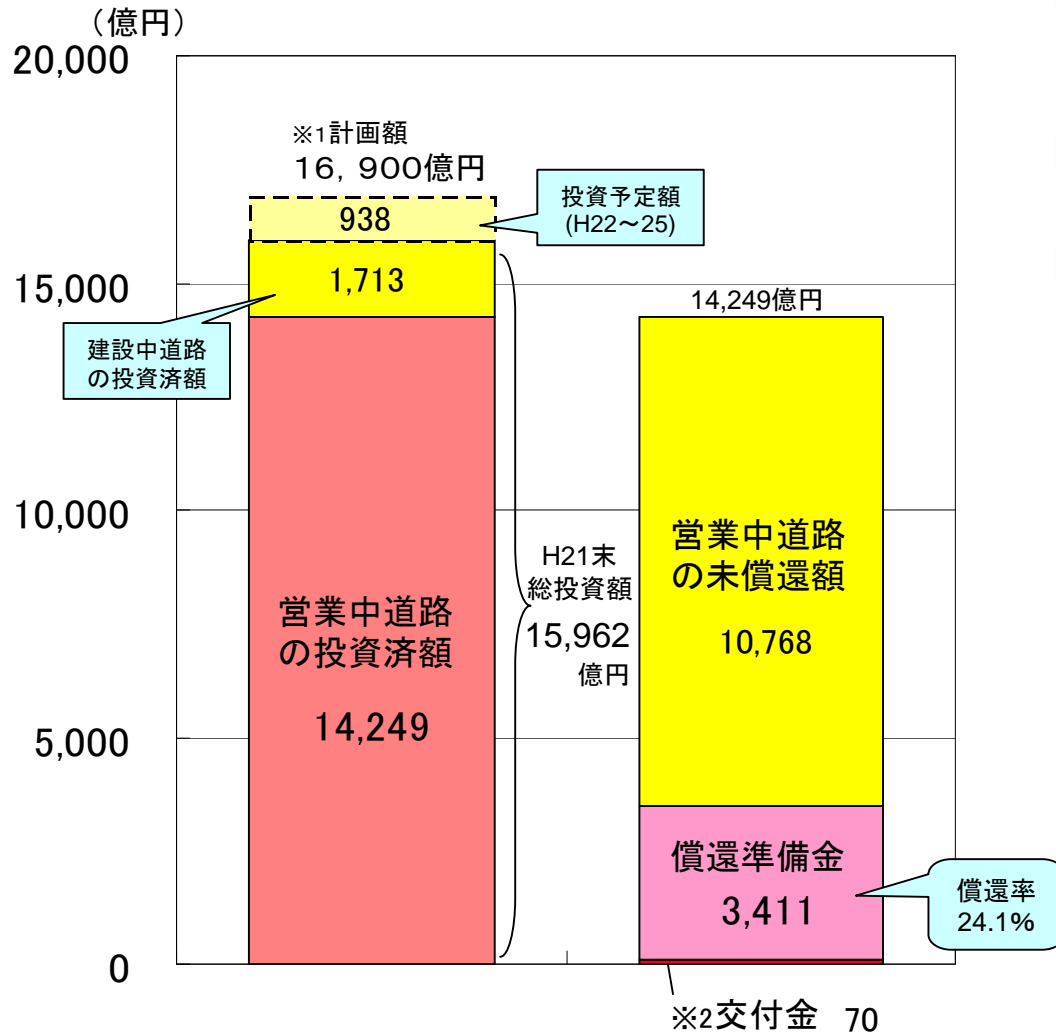
(単位:百万円)

資 産 の 部					負 債 及 び 資 本 の 部				
勘 定 科 目	21年度	20年度	前年度比		勘 定 科 目	21年度	20年度	前年度比	
	A	B	A-B	A/B(%)		A	B	A-B	A/B(%)
流 動 資 産	16,621	19,889	△ 3,268	83.6	流 動 負 債	13,843	18,526	△ 4,683	74.7
現金・預金など	8,616	14,667	△ 6,051	58.7	未払金など	13,843	18,526	△ 4,683	74.7
未収金	8,007	5,222	2,785	153.3	固 定 負 債	960,238	964,898	△ 4,660	99.5
貸倒引当金	△ 2	0	△ 2	皆増	名古屋高速道路債券	369,600	359,600	10,000	102.8
固 定 資 産	1,596,919	1,555,936	40,983	102.6	政府借入金	258,934	263,789	△ 4,855	98.2
道 路	1,424,917	1,422,666	2,251	100.2	県・市借入金	246,113	255,283	△ 9,170	96.4
道路建設仮勘定	171,323	132,430	38,893	129.4	長期借入金など	76,627	76,939	△ 312	99.6
有形固定資産など	679	841	△ 161	80.7	退職給与引当金	1,736	2,067	△ 331	84.0
繰 延 資 産	1,401	1,708	△ 307	82.0	ETCマイレージ引当金	206	198	8	104.0
債券発行諸費など	1,012	903	109	112.1	資産見返交付金	7,022	7,022	0	100.0
調査費	389	805	△ 416	48.3	特別法上の引当金等	341,138	304,258	36,880	112.1
					償還準備金	341,138	304,258	36,880	112.1
					基本金(県・市出資金)	299,722	289,851	9,871	103.4
資 産 合 計	1,614,941	1,577,533	37,408	102.4	負 債・資 本 合 計	1,614,941	1,577,533	37,408	102.4

(注) 端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

- 資産の状況・・・○資産の総額は1兆6,149億円となっています。このうちお客様にご利用いただいている営業中の道路資産は1兆4,249億円、工事中の道路資産(道路建設仮勘定)は1,713億円であり、この合計額は全体の約99%を占めています。
- 負債及び資本の状況・・・○負債及び資本の総額は1兆6,149億円であり、主なものは、道路債券を含む借入金9,513億円、元金返済に充てた償還準備金3,411億円、設立団体の愛知県・名古屋市からの出資金2,997億円となっています。
○なお、建設に要した借入金(道路債券を含む借入金及び出資金)につきましては、全額、お客様からの料金収入で返済していくものです。

◆平成21年度末投資額・償還額の状況



- H21年度末の総投資額は1兆5,962億円となり、※1計画額1兆6,900億円の約94%が投資済となっております。
- H21年度末の総投資額1兆5,962億円は、一部(※2交付金)を除き全て借入金で賄っております。
- H21年度末の償還準備金(借入金の返済に充てた償還準備金繰入の累計額)は3,411億円となっております。

平成21年度の償還率の状況

償還率(営業中道路の投資済額に対する償還準備金の比率)は、24.1%となりました。

$$\text{償還率} = \frac{\text{償還準備金}}{\text{営業中道路の投資済額} - \text{交付金}} \times 100\%$$

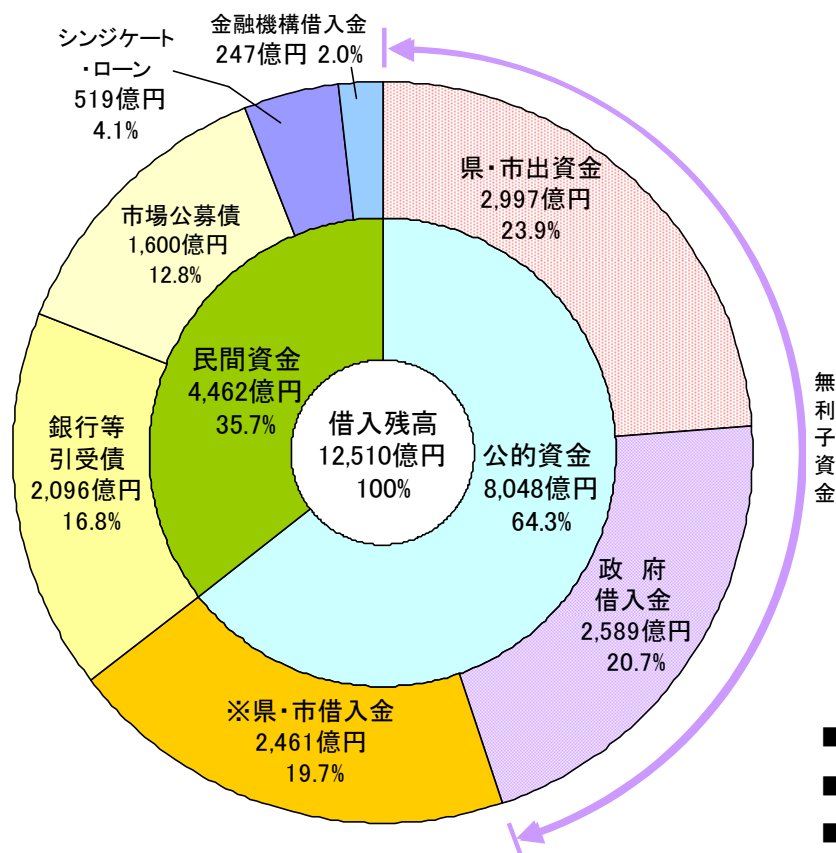
$$24.1\% = \frac{3,411\text{億円}}{(14,249\text{億円} - 70\text{億円})}$$

※1 計画額は、平成22年2月に国土交通大臣から許可を受けた現行の整備計画許可額。

※2 交付金は「資産見返交付金」であり、関連街路分担金に対する一定の補助として昭和63年度まで県・市から受けた補助金であり、償還対象外。



◆ 平成21年度末借入金残高の状況



無
利
子
資
金

※「県・市借入金」は、設立団体である愛知県及び名古屋市が地方債として国から借り入れたものを、同日、同条件で設立団体から公社が貸付を受けたものである。

(単位:億円)

借入先		平成20年度末 借入金残高 (A)	平成21年度 借入額 (B)	平成21年度 償還額 (C)	平成21年度末 借入金残高 (A)+(B)-(C)	期中増減 (H21-H20)
公的資金	県・市出資金	2,899	99	0	2,997	99
	政府借入金	2,638	140	188	2,589	△ 49
	※県・市借入金	2,553	106	197	2,461	△ 92
	計	8,089	344	386	8,048	△ 42
民間資金	銀行等引受債	2,496	140	540	2,096	△ 400
	市場公募債	1,100	500	0	1,600	500
	シンジケート・ローン	509	120	110	519	10
	金融機構借入金	260	0	13	247	△ 13
	計	4,365	760	663	4,462	97
合計		12,455	1,104	1,049	12,510	55

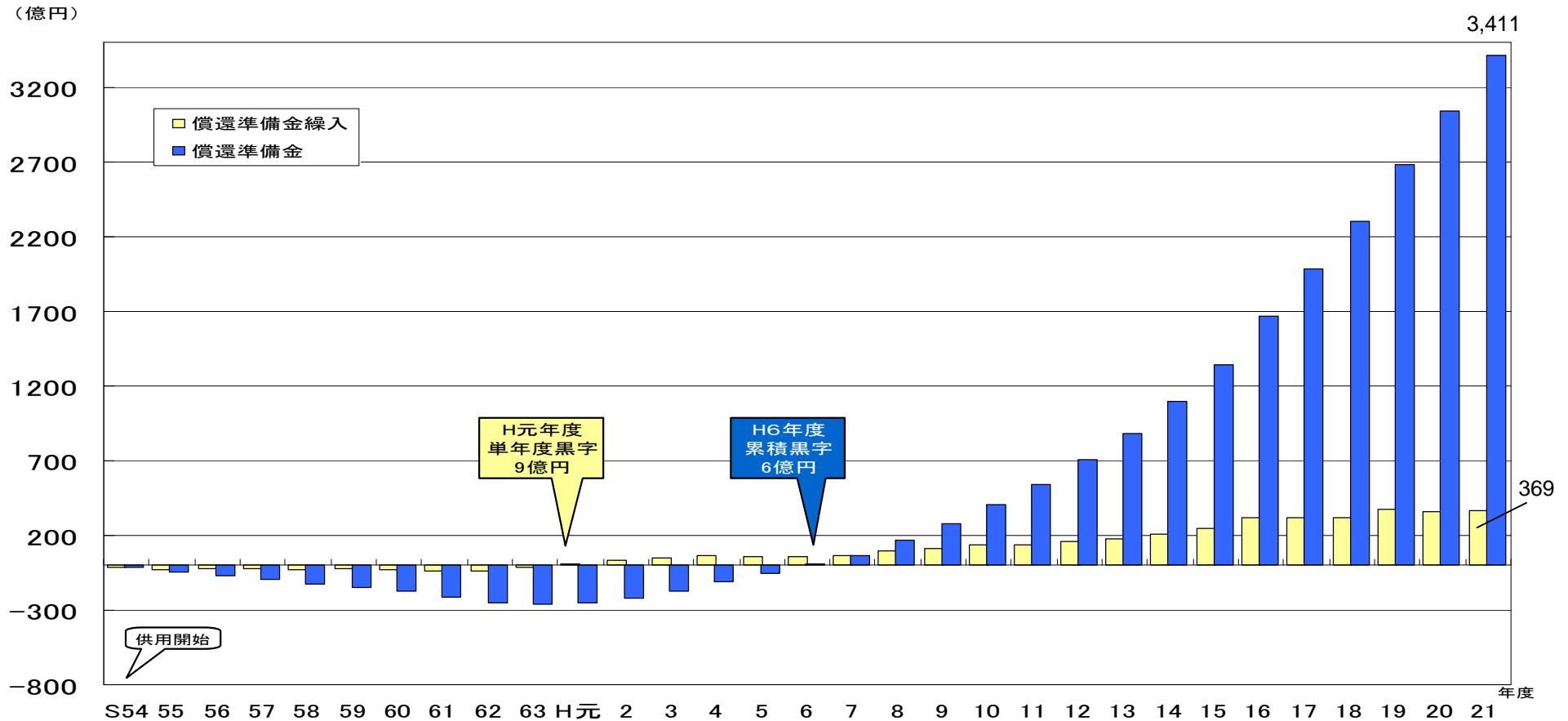
(注) 端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

- 建設に要した借入金のH21年度末残高は、1兆2,510億円となっています。
- 無利子資金の「県・市出資金」、「政府借入金」の計は、全体の45%を占めています。
- 建設に要した借入金残高の構成は、概ね公的資金2/3、民間資金1/3となっています。
- 建設に要した借入金残高は、全額、お客様からの料金収入で返済していくものです。
- 有利子資金の加重平均借入利率

平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末
1.97%	1.94%	1.88%	1.79%



◆ 償還準備金の推移



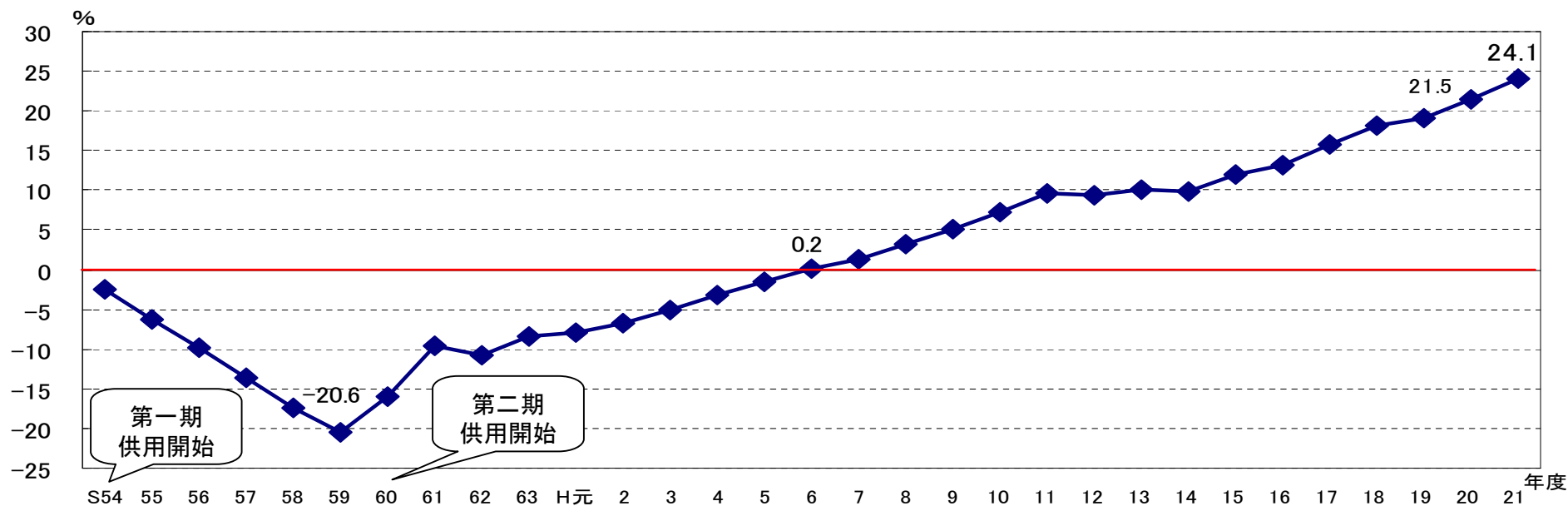
- 昭和54年度供用開始から昭和63年度までは、費用が収益を上回るマイナス状態が続きました。
- 供用区間の延長等に伴い料金収入が増加したことから、平成元年度から単年度黒字に転換、平成6年度には累積でも黒字に転換、以降、毎年償還準備金の繰入が続き、平成21年度には前年度から369億円増加し3,411億円となりました。

◆ 償還率の推移

『償還率』とは、償還対象額に対する償還準備金の比率です。

$$\text{償還率} = \frac{\text{償還準備金}}{\text{営業中道路の資産 (要償還額)}} \times 100$$

■ 供用開始から6年間は下がり傾向のままでしたが、第二期供用(昭和60年度)以降好転し、平成6年度にはプラスとなり、以降、毎年償還を続け、平成21年度には前年度比2.6ポイント向上し、24.1%となりました。



◆ 整備計画における償還計画と償還実績の比較

(単位：億円)

	営業中道路の収支状況(平成21年度) ＜損益ベース＞				営業中道路の償還状況(平成21年度末) ＜貸借ベース＞			
	収益 (A)	費用 (B)	償還準備金 繰入 (A)－(B)	収支率 (B)／(A) ×100	道路資産 総額 (a)	償還準備金 (b)	要償還額 (a)－(b)	償還率 (b)／(a) ×100
実績	597	228	369	38.2 %	14,179	3,411	10,769	24.1 %
計画	589	230	358	39.0 %	14,187	3,401	10,786	24.0 %
実績－計画	8	△ 2	10	△ 0.8 %	△ 8	10	△ 17	0.1 %

(注) 端数処理の関係上、差引において合わないことがあります。

■ 収支状況

□ 収益及び費用においては、概ね計画どおりとなりました。

■ 平成21年度の償還準備金繰入は、収益、費用の状況により、計画を10億円上回ることができました。

■ 償還状況

■ 平成21年度末の償還状況は、償還準備金が計画を10億円上回ることができ、償還率についても計画を0.1%上回ることができました。

記載説明

- 償還計画の達成状況をわかりやすく示すため、経営の基本指標を抽出し、比較しました。
- 「計画」は、平成22年2月に国土交通大臣から許可を受けた現行の整備計画において、参考資料として整理した償還計画の数値。
- 「実績」は、平成21年度の損益計算書、貸借対照表の決算数値。
- なお、「収益」及び「費用」の「計画」には、マイレージ還元負担金(自社分)を加算。
- また、「道路資産総額」は、「計画」「実績」ともに、資産見返交付金(償還対象外)を控除。

◆平成21年度収入支出決算書の概要(1)

(単位:百万円)

収 入					支 出				
予算科目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	予算額との差額	予算科目	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額
業務収入	64,255	60,851	50	△ 3,354	業務費	40,049	39,753	50	246
出資金受入	9,871	9,871	—	0	維持改良費	5,150	4,199	—	951
政府資金受入	13,961	13,961	—	0	業務管理費	7,728	5,060	—	2,668
借入金	86,990	86,579	—	△ 411	一般管理費	3,065	2,901	—	164
県・市借入金	10,579	10,579	—	0	業務外支出	119,147	117,827	—	1,320
民間借入金	76,411	76,000	—	△ 411	元金償還金	104,877	104,877	—	0
業務外収入	67	171	—	104	支払利息	14,270	12,950	—	1,320
					予備費	5	0	—	5
合計	175,144	171,434	50	△ 3,661	合計	175,144	169,740	50	5,355

(注) 端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

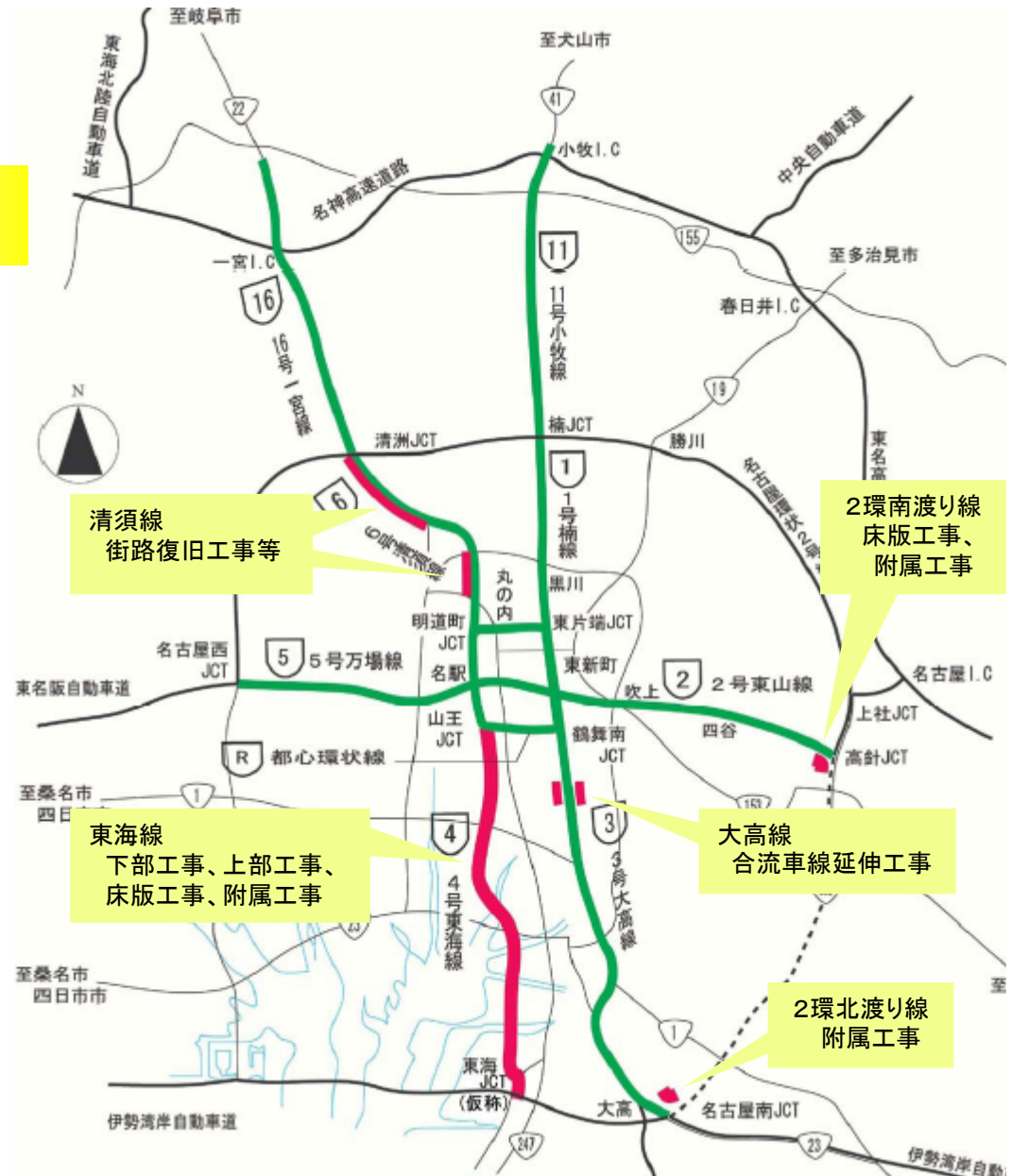
【予算額と決算額の比較】

- 収 入…○業務収入(主に料金収入)は、景気低迷等に伴う交通量の影響により、34億円の減少となりました。
- 借入金は、業務外収入の増加や業務管理費や支払利息など支出の減少により、4億円の減少となりました。
- 業務外収入は、利息収入の増などにより、1億円の増加となりました。
- 支 出…○維持改良費は、雪氷対策費や緊急補修工事費などの減により10億円の減少となりました。
- 業務管理費は、消費税やマイレージ還元負担金などの減により27億円の減少となりました。
- 業務外支出は、支払利息において13億円の減少となりました。

◆ 平成21年度建設事業の状況

主な工事内容は、次のとおりです。

- 東海線の下部工事、上部工事、床版工事及び附属工事を実施しました。
- 東山線の名古屋環状2号線への南渡り線の床版工事及び附属工事を実施しました。
- 大高線の名古屋環状2号線への北渡り線の附属工事を実施しました。
- 渋滞対策として、大高線の高辻・堀田入口合流車線延伸工事を実施しました。
- その他、清須線に係る街路復旧工事等を実施しました。



凡 例	
—	供用区間
—	工事施工箇所

◆ 会計処理の特徴

■ 当会社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、一般に公正妥当と認められている企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

↓ ただし

■ 有料道路事業は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により償還していくものです。また、償還を終えると、本来の道路管理者に引き渡し無料開放することになっているため、利益を追求する概念はなく、利益を上げることが期待されている民間企業と異なります。

↓ したがって

■ 新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式ではなく、むしろ、**借入金**が**着実に償還されているかどうか**を会計処理において適切に把握することが**重要**です。

↓ このため

■ 会計処理の特徴として、**借入金の償還に充てた年度の「収支差」(収益と費用の差)**を「**償還準備金繰入**」として費用に計上し、その累計額を「**償還準備金**」として負債の部に計上しています。

↓ これにより

■ 貸借対照表上で、道路への投下資金総額(借入金総額)である「**道路資産**」と**借入金の償還に充てた「償還準備金**」とを**対比**することで、一目で借入金の償還状況がわかるしくみになっています。

◆ 償還準備金のしくみ

建設開始 → 建設完了

建設中

開通

営業中

償還開始

償還期間

償還完了

道路資産の引渡し

■ 貸借対照表

建設中に借入れたお金は道路建設に投下。建設投資額はすべて道路建設仮勘定に計上

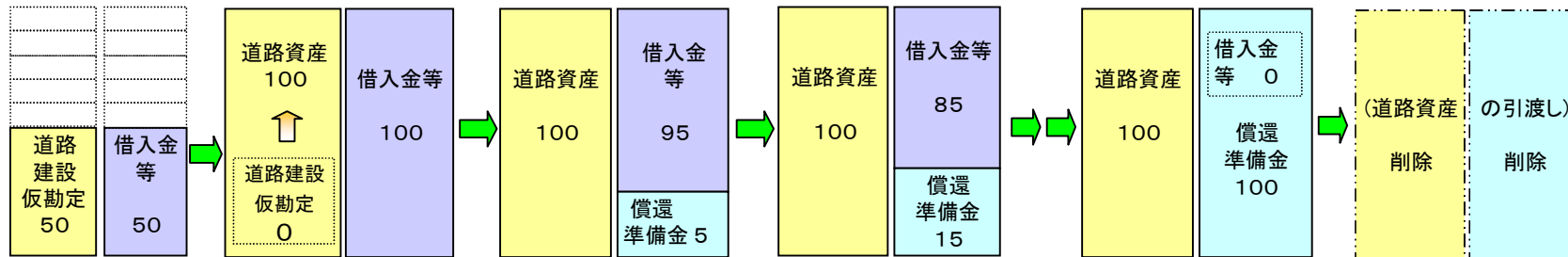
開通時点で、道路建設仮勘定を道路資産に振替える。

損益計算書の償還準備金繰入への計上額は、借入金の返済に充てられる。貸借対照表では、その額だけ借入金残高が減少し償還準備金が増加

料金徴収期間(償還期間)を通じて、毎年度借入金残高が減少し、償還準備金が増加

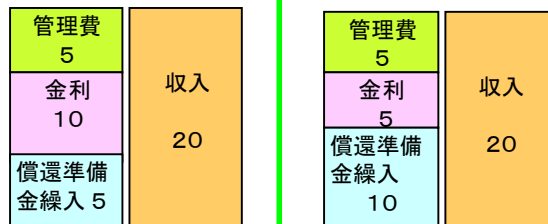
借入金残高がなくなり、道路資産と償還準備金が同額になると償還が完了

道路は、道路管理者(愛知県と名古屋市)に引き渡されると同時に、貸借対照表からは道路資産と償還準備金が削除

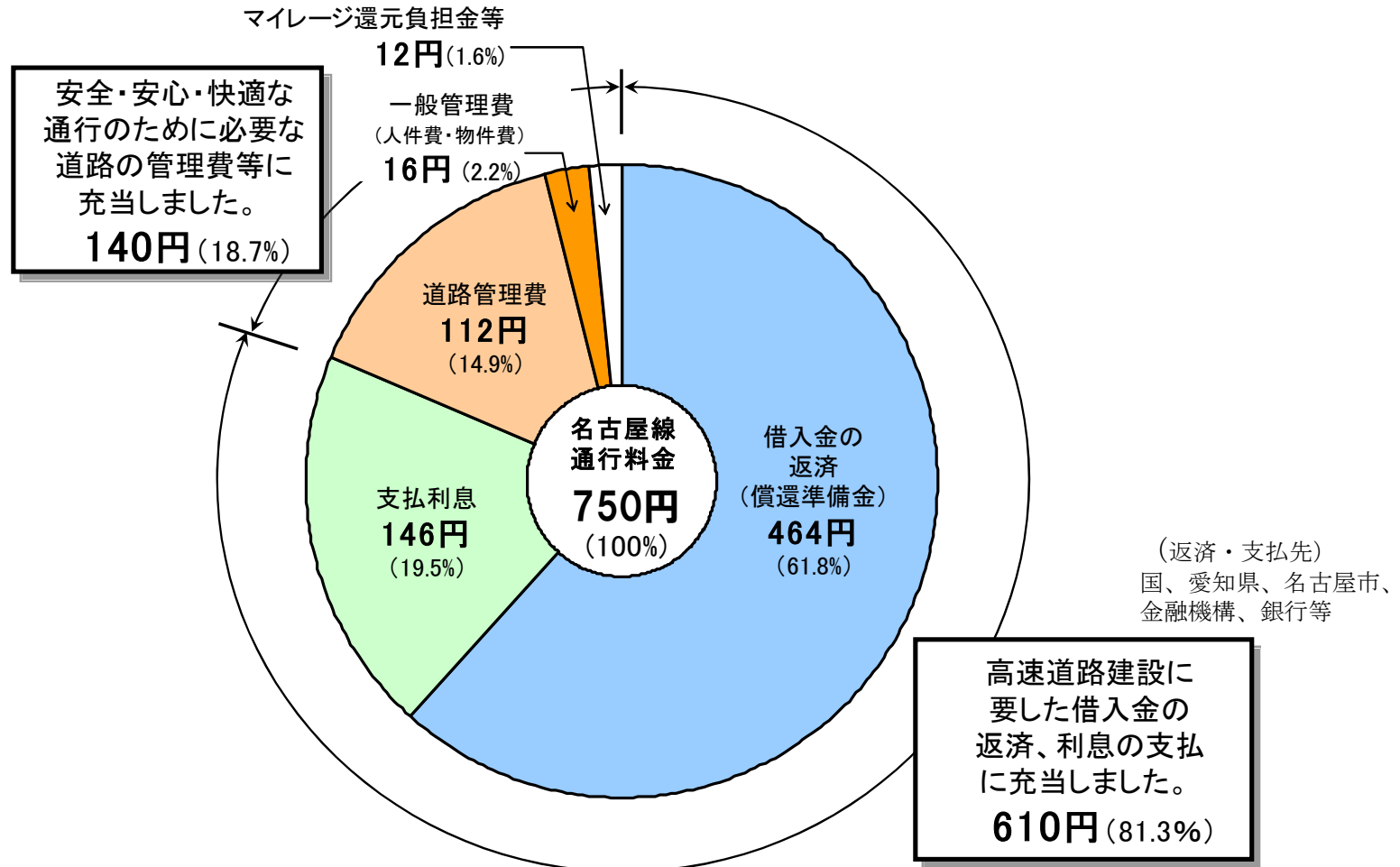


■ 損益計算書

開通後は毎年度、料金収入とともに費用(道路管理費や利息など)が発生。収入からこれらの費用を差し引いた額が償還準備金繰入として計上



◆ お客様からいただいた通行料金の使いみち



- 上記の「使いみち」は、平成21年度の損益計算書を基に750円の料金ケースで計算しています。
- お客様からいただいた通行料金750円は、全て「営業中の道路に要する費用」に充当しています。
- お客様からいただいた通行料金750円のうち610円分(約81%)は、建設に要した借入金の元金返済とその利息に充当しています。